

式 辞

春の息吹を感じる今日の佳き日に、ご来賓の皆様、保護者の皆様にご臨席いただき、第二百二十六回卒業証書授与式を挙行できますことを、心より御礼申し上げます。

卒業生九十五名のみなさん。卒業おめでとう。

今、皆さんの手に渡った卒業証書は、六年間の努力と成長の証です。六年生として過ごしたこの一年間も、本当にいろいろなことがありました。今日の卒業式は、その締めくくりとなる「最後の授業」です。

皆さんが歩んできた六年間は、社会が大きく変わった激動の時期でした。新型コロナウイルスで学校が休校となり、皆さんの入学式は六月一日。ランドセルを背負って登校する日を、どれほど待ちわびたことでしょうか。制約のある生活の中でも、皆さんは日常に楽しみを見つけ、学校生活を積み重ねてきました。

五年生では農業を学び、野菜を育て、直売会を成功させました。今年の五年生はそれを引き継ぎ、さらに発展させてくれました。皆さんの姿が、確かに後輩につながっています。

そして最高学年となった今年。皆さんは富勢小学校の歴史に新しい一歩を刻みました。修学旅行では昨年のが六年生が制作したポスターを引き継ぎ、今年「日光街道探検」の動画に挑戦しました。東映のプロデューサーに、一番大切なのは“計画と準備”だと教わり、みんなで知恵を絞ってつくりましたね。撮影中はヒヤッとした場面もありましたが、完成した動画を見て、よくここまで仕上げたと感心しました。

さらに二学期からは「地域貢献プロジェクト」。人口減少が進む富勢地域に、人を呼び込むアイデアを考え、動画とジオラマにまとめました。日本大学の先生や学生の皆さん、地域の皆さんに教えていただきながら、課題の現場に足を運び、たくさんの方々の声を聞き、二月の発表会にこぎつけました。市役所の方々が「どこかで活かしたい」と言ってくださったのは、皆さんの熱い思いが伝わったからです。

その取り組みは今週末のユースボイスイン柏にもつながっています。皆さんの作品は、社会を動かす小さな一歩になると信じています。なぜなら、その作品には、何度も失敗し、うまくいかない中でも「やり抜こう」とする皆さんの“熱”が込められているからです。

この「熱」は、これからの人生を切り拓く大切な力になります。夢に挑戦するとき、壁にぶつかったとき、その熱が背中を押してくれます。

四月からは中学生です。皆さんに意識してほしい言葉があります。それは「自律」です。

「自分でなんでもやる」「人に頼らない」。そう考える人も多いかもしれませんが。しかし、それは自律ではなく“孤立”です。

人は一人では生きていけません。
では、自律とは何か。

それは、「助けて」と言えること。

そして、友達が困っているときに「大丈夫？ 手伝おうか」と声をかけられることです。苦しい場面で支え合える関係。自律した者同士がつながったとき、そこに生まれるのが「絆」です。

予測の難しいこれからの社会では、夢に向かって努力する熱量と、仲間との絆を持つことが、皆さんの大きな強みになります。熱と絆です。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。休校から始まった小学校生活は、ご心配も多かったことと思います。どうかこれからも、お子様の成長を信じ、いつまでも「子どもが憧れる大人」でいていただければ幸いです。これまで本校にお寄せいただいたご支援に、心より感謝申し上げます。

そして、富勢中学校区コミュニティ・スクールの皆様。皆様の温かなご支援が、子どもたちの学びを地域と結びつけてくださいました。引き続き「地域の担い手を育む」取り組みを、共に進めていければと思います。

卒業生のみなさん。いよいよよ羽ばたきの時です。

呼名の「はい」は、思い描いたイメージ通りにできましたか。ここからは最後の授業の後半戦です。呼びかけも合唱も、心を込めてやりきってください。そして、皆さんの夢に向かって、力強く羽ばたいてください。

富勢小学校の先生たちは、いつまでも皆さんの背中を応援しています。

令和八年三月十七日

柏市立富勢小学校

校長

梅津健志